

# 2-21

## 雇用統計

経済指標のなかでも、失業率は重要な指標です。経済政策の目標の一つは、失業を減らすことだといってもよいでしょう。景気との関連でいえば、求人数の求職者数に対する比率を示した有効求人倍率が重要です。

### ▶▶ 働くことに関する統計

失業率は、労働力人口に占める失業者の割合です。労働力人口とは、すべての人が含まれるわけではなく、15歳以上の働きたい人だけを指します。学生や主婦は労働力人口に入りません。

元になる就業者や労働力人口などのデータを見ることも重要です。失業率は、労働力人口が増加すると低下します。景気が良くなる時には、これまで働きにでなかった主婦が労働力人口に加わる場合があります。この場合は失業者数が変わらなくても、失業率が低下することになります。

景気との関係で重要なのは、「有効求人倍率」です。ほぼ景気と連動して動くことが知られています。これは、ハローワークでの求職者と比較した求人の倍率を表しています。「有効」というのは、求人票や求職票は提出してから3か月間有効であるためです。その月に出した求人票や求職票から計算した求人倍率は、「新規求人倍率」と呼ばれます。

厚生労働省の「毎月勤労統計」は、雇用についてのさまざまな動きを基準年を100として表したものです。雇用量全体については、「常用雇用指数」で把握します。常用雇用は、定期的に雇われている雇用者を指し、パート労働者も入ります。賃金は、所定内給与と所定外給与(残業代)に分けて、把握することができます。労働時間についても、所定内労働時間、所定外労働時間(残業時間)とに分けて把握できます。所定外労働時間は景気との関連の深い統計です。

### ▶▶ 雇用調整の順序

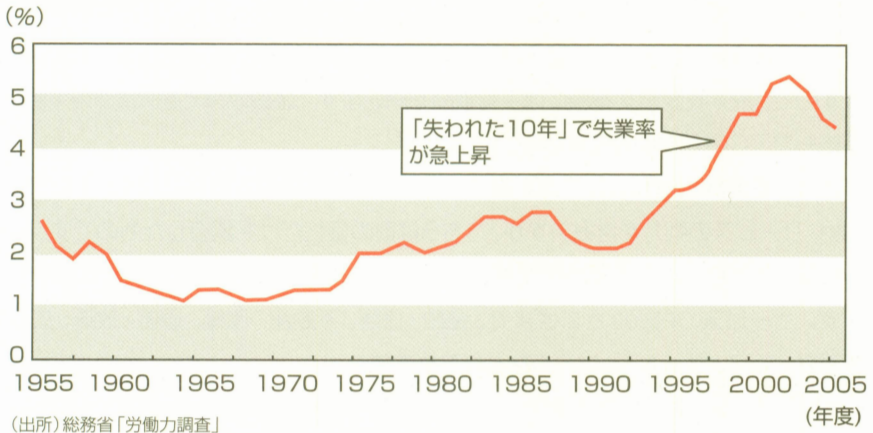
企業が雇用調整するのは、ある程度順序があります。景気が悪くなると、まず所定外労働時間(残業)が減ります。次に、ボーナスや賃金などを調整します。それでも人

件費がかさむ場合は、人員整理をすることになります。

### 雇用に関する主な資料

統計名	発表者	期種	解説
労働力調査	総務省統計局	月次	労働力人口、就業者数や失業者数、失業率などがわかる。
毎月勤労統計	厚生労働省	月次	賃金や雇用量の統計。
職業安定業務統計 (一般職業紹介状況)	厚生労働省	月次	有効求人倍率がわかる。景気に連動する重要な指標。

#### ●完全失業率



#### ●有効求人倍率

